

燕三条でスキルアップ研修

課題解決力など向上を目指す

日本製鉄グループの日鉄総研は3月22日、燕三条地場産業振興センターリサーチコアでスタッフ系中堅社員を対象にスキルアップ研修を開催した。燕三条地域の薄板、ステンレスの特約店や物流関連、日本製鉄新潟支店

等から18人が参加し、業務改善スキル向上やコミュニケーション力向上を目指した。講師は日鉄総研の黒川伸洋教育事業センター長。製鋼部門等で培った現場第一の経験を元に、中堅社員としての自己の課題設定、課

題解決に向けた手法を伝授した。黒川氏は冒頭「自分の課題を頭に描いて問題意識を持って研修を受講してほしい」と切り出し、受講の心得を伝えた。①自分の意見を積極的に発信②聞くことで気付きが生ま

れ、自分の枠が広がる③不明点は質問する。④研修機会を逃さない⑤研修したことを会社で適用、実行し改善すること」を強調した。また、「これから必要になる人材は専門知識、技能を備えた人材。変わる人が買われる人」と目標像を提示した。その後テーマ別にグループ討議を行った。

「中堅リーダー社員の果たすべき役割」「仕事のマンネリ化」「なぜコミュニケーションは難しいか」「報・連・告すること、中間報告・相のレベルアップ」を行うこと、関係者すべてに連絡すること等



「報・連・告」というのは上司のタイプ見極めや自分の案をまとめてから発表し、課題やその解決のための具体的な手法を共有した。発表し、課題やその解決のための具体的な手法を共有した。

「報・連・告」というのは上司のタイプ見極めや自分の案をまとめてから発表し、課題やその解決のための具体的な手法を共有した。

「報・連・告」というのは上司のタイプ見極めや自分の案をまとめてから発表し、課題やその解決のための具体的な手法を共有した。

「報・連・告」というのは上司のタイプ見極めや自分の案をまとめてから発表し、課題やその解決のための具体的な手法を共有した。

を班ごとのポイントを確認し、低くなり、言いたいことを踏まえて事例発表や意見を交換を行い、実務に直結するような気付きを得た内容の濃い一日となった。

